

	課題分析	授業改善策
1年	・国語では、1学期中にひらがなの習得が不十分な児童が若干名いた。 ・算数の文章題の読み取りができない児童が多かった。また、問題文を最後まで読んでいない児童も多かった。 ・話し合い活動では、自分の意見をどのように伝えたらいいかわからない児童がいた。	・授業で、文字を書く機会を多くもたせるとともに、個別指導の時間を設ける。 ・言葉の意味を説明したり、問題に慣れさせたりし、丁寧に指導していく。見直しをする習慣を付ける。 ・自分の意見を言えるように、話し合いの機会を増やしたり、ペアワークから始め、徐々に話し合える人数を増やしたりする。
2年	・国語の「書く」では、はじめ中終わりで文章を書く際に、段落を作る力が不十分。また、言語事項に関しては、語彙力に乏しい児童が多い。 ・算数では、計算の得意不得意の差が大きい。図形の問題や測定に関する能力が低い。 ・話し合いでは、自分の意見を言えない児童や、伝えたい思いを言語化できない児童がいる。意見を決めた児童の発言で話し合いが進んでしまう傾向にある。	・詩の視写をしたり、日記を書く活動を習慣化したりして、文や文章を書かせる経験を増やす。書いた日記を読み返して内容を確認したり、教師が児童の作文を紹介したりする時間をとり表現方法を広げる。 ・計算が定着するよう、反復練習を行う。日常生活から単位についての意識をもたせられるよう、意図的な声掛けをするなど生活と結び付けられるようにしていく。 ・話型を使ったり友達と考える時間を作ったり、話し合いをする機会を多くもたせることによって、経験を積ませる。
3年	・国語では、長い文章を書く力が乏しい。文章の内容や量、書き終えるまでの時間に個人差が生じる。また、文字を丁寧に書くことや学年配当漢字の習得を苦手とする児童が複数いる。 ・算数では、課題を解決する際に、「自分の考え」を表現するための技能が不足している。 ・グループやペアで学ぶ際に、他者への積極的な関わりが少ない。 ・学級活動では、話し合いの時に自分の考えを発表したり、全体の考えを尊重して考えたりすることができてきている。	・手本となる文をもとにし、写したり書き加えたりする学習を繰り返し行い、抵抗感を減らしつつ個人の技能を高め、自信をもたせる。漢字の「書き」については、書字能力的に配慮の必要な児童への配慮をしつつ、丁寧に書くよう声を掛ける。ポイントを絞り、励みになる添削をしていく。 ・教師が、具体的な表現方法を提示し、時間を確保することで、技能を高める。互いに教え合ったり見合ったりする時間を取り、スモールステップで、経験を積み、自信をもって取り組めるようにしていく。 ・関わりを増やすために、教師が介在し、児童同士をつなぐようにする。 ・話し合いでの良い部分を、認めたり褒めたりして、次への活動に生かす。

4年	・国語の「書く」学習において、自分の考えを言語化することが乏しい児童が多い。また、質問の内容を十分理解できている児童が少なく、質問と回答の整合性が見られない場合が多くある。 ・算数では、学力の差が大きく、既習事項を示しつつ、より丁寧に個に応じた支援を図る必要がある。 ・話し合いでは、自分の意見を発言する児童は多い。反面、話し合いにおける課題やテーマから逸脱する児童が多く、教師が先導しないと話し合いの深化が見られない。	・「書くこと」に対する抵抗感を少なくするために、ペアやグループでの伝え合いの活動を書く活動の前に行ったり、話型を示したりする。様々な授業で書く活動を取り入れて、思考を可視化していく。 ・習熟度別学習を効果的に行えるよう、レディネステストによる分析を十分行い、指導に生かす。基礎基本の定着を図るため、算数習熟度担当と連携を図り、プリント等を朝学習の時間に実施する。また、算数の授業では、ヒントカードや個に応じた支援が適切に行えるよう、学習物の充実を図る。 ・様々な授業で話し合いの充実を図る。話し合いの焦点化を図るために課題やテーマを教師が提示する。また、グループでの話し合いの時には、司会役を立てることで教師主導にならないように工夫する。話し合いが充実してきたら、話し合いの課題やテーマを自分たちで考えて解決できるようにスモールステップで行えるようにしていく。
5年	・国語では、自分の考えたことを言語化できず、話すときも書くときでも単語で発信するなど、上手く表現できない児童が多い。 ・算数では、課題解決に向けて複数の解答方法を意欲的に思考する力が弱く、正解を待つだけで、試行錯誤して答えを導き出すことに向き合わない児童が多い。 ・話し合いの場面で多くの意見を出すことができる。しかし、一方通行になりがちであり、やり取りに大人が介在しないと意見がまとまりにくい場面が見られる。	・自分の考えや気持ちを表現できる機会を増やし、スモールトークなど日常的な会話から表現活動を増やしていく。 ・知識・技能面の力を付けさせるとともに、それを土台とした思考活動を意図的に取り入れ、経験と結び付けて考えさせ、思考力を高めていく。 ・日常的にペアトークやグループ交流など少人数の話し合いの時間を学習で取り入れ、意見を対立させたり、まとめたりして話す力を鍛える。

6年	・国語では、読み手に伝わりやすいよう、文章構成を工夫しながら書くことに苦手意識をもっている児童が多い。 ・算数では、学力の差が大きく、より丁寧に個別支援をする必要がある。また、基本的な計算問題は解けても、文章題になると正しく演算決定ができない児童も少なくない。 ・学級全体での話し合い活動では、自分の意見を述べることでできる児童に偏りが見られる。参加の仕方に個人差があるため、他人事になってしまう児童への働きかけが必要である。	・教科書の説明的文章を扱う際は、文章構成に着目させ、段落の順序や接続詞の意味を丁寧に押さえ、確認していく。また、学習したことを生かしながら文章を書き、段落ごとに読み返す習慣を付けさせる。また、最後に推敲する時間を設定する。 ・習熟度別学習をより効果的に活用し、適切な指導ができるよう、算数専科の教員と協力して、教材研究や準備を進めていく。児童の実態の応じた復習プリントを準備し、学習内容の定着を図る。 ・教科に限らず、様々な場面で対話の機会を増やすことにより、児童が自信をもって話し合いに参加できるようにしていく。朝の時間を活用して、スモールトークを行い、交流する力を高める。相手の話を受けて質問したり、反応したりしながら聞くなど、交流を通して自分の考えを深めていくためのポイントを丁寧に指導する。
専科	・表現・鑑賞学習では、話すことや書くことを得意とする児童のつぶやきを中心に学習を進める傾向がある。どの児童にも自分の実感として音楽を感じ取ってほしいし、友達の考えや表現に興味を持ってほしいと願っている。(音楽) ・学習に意欲的に取り組む児童が多い。題材によって集中力に差がある児童もいるため、最後まで意欲的に粘り強く取り組む姿勢には課題がのこる。(図工) ・鑑賞活動では、人前で話すことが得意な児童は思いを伝えられるが、苦手な児童は思いがあってもうまく伝えきれない場面が多い。(図工) ・生き物の観察や飼育の学習では、なかなか生き物の成長のタイミング(雄花雌花の開花・メダカの発生)と観察のタイミングが合わないことがあった。また、実験や観察に時間がかかってしまい、グループや個人の意見を共有する場面を設定することが難しかった。(理科)	・鑑賞では、ポイントを絞って、できるだけ数多く曲を聴かせることで友達と共有する場面を増やす。表現では、繰り返し励みながら、声の響きを実感させ、児童が自分の言葉で音楽表現を伝えられるよう掲示物を工夫する。(音楽) ・児童同士で作品を見合える授業展開や環境の工夫を取り入れる。鑑賞で新しい発想のきっかけをつかむと共に、もっとやってみたいと意欲を保てるよう学習を展開していく。(図工) ・全体での鑑賞以外に、安心して伝えられる少人数の相互鑑賞も行う。また付箋やタブレット端末の機能を利用し最初を書くことで話すことを明確にして話す際の補助とするような鑑賞活動にも取り組む。(図工) ・複数個体を少しずつずらして栽培したり飼育したりできるようにしたり、予め動画や写真を撮影することで、疑似的な実験・観察ができるようにしていく。ICT 機器を使って (Padlet など)、素早くグループの意見を交流したり個人の意見を共有したりできるように環境を整える。(理科)